

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人福和会		
事業所名	グループホーム朝風 I		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	平成29年11月5日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が毎日笑顔で楽しく暮らせるように本人、御家族とのコミュニケーションを大切に職員が日々ケアの向上に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kan=true&JigyosyoCd=0170400956-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム朝風」は、札幌市郊外の自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。広い敷地内には母体法人の病院やケアハウス、同法人のグループホームも隣接している。建物内は、居間と食堂が独立している広々とした開放感のある造りで、清掃も行き届いた清潔感のある空間になっている。壁には、利用者と職員の手作り作品で綺麗な装飾が施されており、家庭的な温もりと季節感が感じられる。法人の納涼祭や町内会の清掃、お祭りなどに利用者と一緒に参加して地域住民と交流を深めている。近隣の幼稚園との交流も継続して行われており、クリスマス会などに園児が来訪して遊戯を披露したり利用者とお話をしながら触れ合っている。庭先にある桜やサクランボの木で花見やサクランボ狩りを楽しんだり、円山動物園やさとらんどへの外出、手稲山に紅葉見学に出かけるなど年間を通して外出行事を積極的に採り入れている。馴染みの方々との交流が継続できるように、手紙のやり取りを支援したり年賀状の作成にも取り組んでいる。母体法人の医療機関による充実した医療支援が24時間体制で行われており、利用者と家族の安心感につながっている。職員は明るい笑顔で寄り添いながら、一人ひとりの利用者の残存能力を活かして役割を持って生活できるように温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努める事を法人理念として掲げゆくり、一緒に、楽しく、地域に根差して生活できる事を目標に日々取り組んでいます。	地域密着型サービスを意識した法人共通の運営理念を事業所の要所に掲げている。職員は、出勤時などに確認して理解を深めている。代表者から理念の説明を受けたり、毎週月曜日の全体朝礼などで共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会の総会や公園の清掃に参加、連合町内会のお祭りに参加、小学校の資源回収に協力、近隣幼稚園の年長さんとの交流も続いています。	法人の納涼祭やクリスマス会などで外部の方々と交流している。幼稚園児が来訪して遊戯を披露したり、利用者と会話をしながら触れ合っている。小学校の運動会見学に出かけたり、地域の草刈りに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の方に日々行っている支援の報告を行い認知症への理解をしていただいています。又地域の人に役立つ情報も提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近年地震や水害などの災害が続いており防災対策を町内の皆さんと話し合ったり市の出前講座を利用しゴミの分別の正しい方法を学んだりしています。	市の出前講座を活用してマイナンバー制度やゴミの分別などをテーマにしたり、製薬会社による「高齢者の水分補給」についての講話を行っている。意見交換も活発に行われている。家族に電話で出席を依頼し、議事録は全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護度申請、介護度区分変更申請、生活保護受給者の連絡などで市の担当者と連絡を取りあい協力関係を築いています。	管理者は、おむつサービスや生活保護受給者の相談などで区役所を訪問している。市役所とはメールやファックスでやり取りしている。保護課の職員が来訪した時は、情報交換しながら相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を職員が理解し身体拘束をしないケアを実践しています。玄関の施錠は夜間のみ防犯上の理由でおこなっています。	「身体拘束ゼロへの手引き」を整備し、「禁止の対象となる具体的な行為」を職員室などに掲示している。外部研修後に報告研修を行ったり、一般的な事例に沿って検討することもある。利用者が出かけようとした時はさりげなく寄り添いながら、自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外で実施されている研修への参加、及び通達を確認しながら職員への周知を行っている。また研修内容を合同会議で発表し意見交換を行い防止の徹底を図っています。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度についての研修に参加し制度の理解を深めることができました。今後役に立ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時 利用者、家族に十分な説明と話し合いをもち理解と納得をしていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者、家族の意見、希望に耳を傾け毎朝のミーティングやフロア会議、運営推進会議においてに反映している。	家族の来訪時に話をしたり、2か月毎に発行している「朝風便り」に意見や要望を伝えてほしい旨を記載している。殆ど意見や要望はないが、今後は継続的に情報を共有できるように、些細な要望も記録に残していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は共に現場で考え助言する統括ホーム長を組織の中に置いており毎日のミーティング時または必要時話し合いを持ち職員の意見の反映につとめています。	管理者は、普段の業務の中で職員の意見や提案を聞き取りながらケアや運営に活かしている。2か月毎の全体会議や毎日の申し送り時にも、業務の改善などについて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括ホーム長に職場状況を日々報告し環境整備、条件の整備をはかっていただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	札幌市やグループホーム協会主催の研修に参加しまた院内研修も多くなり個々の質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議に出席し意見交換を行っていません。又手稲区で行っている手稲フェスティバルに参加し施設間の交流から学ぶことが多い又各研修に参加し同業者との交流から学ぶことも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居受付窓口は運営法人の相談員で入所前より相談員より情報をいただいております、また施設見学時に不安なこと、希望などに耳を傾け良い関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時利用者、家族から不安なこと希望が出しやすい雰囲気づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に家族」、本人の要望を確認し、できる事出来ない事をしっかり説明する事で、信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学び得る事は多々あり(人生の先輩)職員はその入居者の歩んできた道を大切に接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現況報告を月一回必ず行い、入居者自信を中心とした関係作りに努めています。面会に月1回は来ていただくようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊や家族、知人、親類の面会の時間や馴染みの方への手紙での交流を大切にしています	職場関係の知人が訪ねて来たり、手紙のやり取りをしている方もいる。利用者全員で、親族に年賀状を書いているユニットもある。職員と一緒に移動販売車で買い物をしたり、家族とドライブや外出に出かけている。信仰を継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動(ジグソーパズル、計算問題など)においてはできた人ができていない人を自然に教えあっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族が時々ホームに来られ相談されたり近況報告していきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人御家族の意向を聞くようにしており、本人の立場に立ったケアプランの立案、実践 評価を通して思いやり意向をしっかりと捉える努力をしています。	職員は、普段の表情や仕草、家族からの情報などから意向や思いの把握に努めている。アセスメントシートを毎年更新しているが、趣味や嗜好などの情報の蓄積は十分とは言えない。	趣味や嗜好などの変化を記録する様式を検討して情報を蓄積し、思いや意向の把握に活かすよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に出生から現在までの生活歴をかいていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護師が毎日健康チェックして記録しています。介護記録に毎日の過ごし方を記録しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム、家族、本人(難しい場合本人の意向)を含めて共同で作成している。	職員への聞き取りを基に計画作成担当者が評価を行い、6か月毎に介護計画を作成している。職員は介護計画を見ながら日々の記録を記入しているが、変化や課題の記録が十分行われているとは言えない。	担当職員が評価を行うなど、全職員が介護計画の作成に深く関わるような取り組みを期待したい。介護計画の見直しに活かせるように、サービス内容に沿って変化や課題を日々の記録に残すよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた実践を日々記録しており、その結果をプランの見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	期間に応じ見直しを行っており、又、本人の変化が生じた時にはその都度対応を検討し、プランの修正をおこなっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園との交流会や、立花病院で行われる納涼祭、盆踊り、敬老祭、Xmas会、毎週金曜日に行われるカラオケに参加カラオケは5名の方が毎週歌っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医である協力医療機関や、他科など利用者」が希望する医療機関への支援体制も確保しています。看護師が日常的な健康管理や受診経過の把握、医師との連携で医療支援に努めています。	外部へ受診する時は、主治医が書面で医療情報を提供し、医師間で情報交換しながら適切な医療支援を行っている。受診状況は「医療連携記録」に個別に記録して職員間で情報を共有している。	

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり日常の健康管理を毎日行っており常に職員に助言、対応を行い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を第一に相談し、必要な情報を交換、共有しつつ、入院中も安心して過ごせるよう配慮、支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて早い段階から、かかりつけ医、経営者、管理者と家族で随時話合いの場を設けてその都度方針を確認しあっています。	利用開始時に重度化の指針に沿って説明し、体調変化に応じて主治医の判断の下にその都度方針を検討することを伝えている。主治医がグループホームでの対応が難しいと判断した時は、新たな施設の移行について相談に乗っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している病院と医療連携をとっており急変時は日中、夜間共に診察を受けれる体制になっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近年毎年おきる災害に対して今年防災頭巾を作成し災害に備えるようにし又水害時の訓練もしました。	防災センターの協力の下に法人合同の火災訓練を実施し、病院職員の参加を得て夜間の水害を想定した自主訓練も行っている。地震時のケア別の対応について全職員で確認すると共に、消防署の協力を得た訓練も実施したいと考えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを守り、言葉や、語調について配慮し支援しています。	苗字に「さん」づけを基本に、家族や本人の希望に沿った呼び方をすることもある。利用者同士の関わり方に気を配り、一人ひとりが落ち着いて過ごせるように本人に合った適切な対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	バスレクリエーションで行きたいところやランチで食べたいもの選挙の投票など本人の意向を第一に考え支援するよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、必要な支援を行っている。又本人のペースを尊重しつつ体力や、状態にあわせた生活の組み立ても考え支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ、訪問理容、美容を利用し、一人一人が大切にしているおしゃれや身だしなみを支援しています。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューにより野菜の皮むきを手伝ったり、昆布巻き作りを全員でしたりできること、やりたいことはしていただいています又個々の誕生日には希望のメニューにしています。	普段の食事以外に、行事食やバスレクを利用してレストランなどで食事をしている。職員が手作りのお花見弁当を作ったり、秋には味覚祭を開催して楽しく食事ができるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日1000mlの水分を取るよう支援しています。専属の栄養士が栄養バランスを考えた献立を作り個々の状態に応じた食べ方を指導してくれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨きをしていただいています。自力のできるひとは声かけしています。出来ない方はこちらで支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎にトイレ誘導し排泄の失敗を少なくしています。	全員の排泄を記録して、確認しながらトイレに誘導することで以前より失禁の回数が少なくなっている。リハビリパンツの使用から、布パンツにパッド利用などに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の出る時間を把握しトイレ誘導しています。又食事メニューに繊維質のあるものを取り入れたり、水分を多めにとっていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身の状態を把握し、配慮しながら実施している。本人の意向で熱い湯、ぬるい湯と調整したり、入浴剤で温泉気分を味わっていただいたりと入浴を楽しんでいただいています。	日曜以外の週4回の午後の時間帯に、一人あたり週2回の入浴を支援して清潔保持に努めている。拒否がある場合は、職員の声かけを工夫して誘導することで気分よく入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休めないとき、職員が話し相手になったり眠れるよう1人1人にあつた方法や環境を把握し対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示に基づき、わからないところは確認しながら服薬の支援と変化の確認につとめている。誤薬がないようスタッフ間で声かけしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等の情報から職業や趣味を生かし役割分担や行事参加等の楽しみを利用者とともにしています。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と昼食を共にするためや教会へ行かれるために外出したり、毎日の天気に合わせて戸外散歩や買い物に出かけたり、バスレクレーションで水族館や大きな公園行ったり、外食にでかけたりしています。	日々の散歩で敷地内の中庭や公園を歩いたり、庭先でサクランボ狩りをしている。バスレクで動物園やさとらんど、白い恋人パーク、手稲山の紅葉見学に出かけている。家族対応で外食に出かけている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の認知能力に応じてお金を所持させています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の認知能力により電話や手紙を書いていたいており、相手よりお手紙が来るととても喜んでおります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾をし又利用者の作品や写真を貼り楽しみがもてるようにしています。入居者の皆さんは装飾、写真、作品を貼るのを楽しみにしております。	清掃担当者がいるため、事業所内はどこも綺麗に清掃され適温適湿の環境になっている。居間に複数のソファが配置してあり、利用者は安心して自由な場所に腰かけて職員と談笑している。季節ごとに利用者の手作り作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのソファの座る位置がそれぞれきまっており、それぞれが一番安心できる場所になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの衣類、タンスや机、イス壁掛け化粧品、をもってきていただき、本人が心地よく過ごせるよう置き場所を配慮しています。	以前の暮らしを継続できるように、古くから大切にしていた物や使い慣れている物を持ち込んでいる。テレビ、仏壇、家族の写真を綺麗に飾っている。綺麗に清掃された部屋で安心して暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路、トイレ浴室には手摺がついており安全に使用できる、各スペースも広くつくられているので車椅子でも安全に過ごすことができる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人福和会		
事業所名	グループホーム朝風 II		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念	1 ゆっくり 2 いっしょに 3 楽しい暮らし
	御本人の意思を尊重しながら持っている力を発揮できるように支援し、皆さん仲良く穏やかに暮らし、ご家族に安心して頂けるように支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0170400956-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差した穏やかな暮らしを大切にし利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努めます」という理念を掲げて実践できるよう努力していきます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会の総会や公園の草刈清掃に参加している。近隣の幼稚園との交流会や併設している母体病院の行事や毎週カラオケに参加している。小学校の資源回収に協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議で町内会の方にホームの活動を報告を行い支援内容を知って頂き質問に対して答えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で自己評価を公表している、行事や生活についても報告し話合っている、町内会の悩み等も聴くことができ災害時の支援についても考える場となっている。推進会議録はご家族に送り周知して頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者へ電話し分からない事を聞いて知識を得てご家族へ連絡している。管理者会議にて市の情報を得ている。アンケート調査に回答し実情を報告している。認定調査時情報を提供をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ防犯上の理由で施錠しているか、日中は開錠し自由に出れる様にしている。身体的拘束はしていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修で学んだ事をお互い話し合い不適切なケアに繋がらないようにしている。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	手稲区管理者会議や外部研修・資料などから成年後見制度について知識得ている。現在は必要とする関係者いないが今後必要性があれば活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「重要事項説明書」「運営規定」「利用契約書」などをもとに十分な説明を行って理解納得できる様になっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、第三者委員を設置し、苦情処理に努める様にしています。又、家族から気軽に相談、話ができる様にし運営に反映出来る様にしている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括ホーム長と朝礼時、問題や意見を出し合い出席していない職員へ伝え話し合い日常的に提案を反映出来る様に努力している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力実績などお互い評価し合っていることなど、統括ホーム長へ報告代表者に伝え向上心を持って働ける職場環境になる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修計画をたて必要な研修に必要と思われる職員が参加し学んだことを合同会議で勉強会を行っている。参加できなかった職員へ伝達できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者連絡会に参加し他のグループホームと交流し情報を得ており勉強になっている、手稲ふれあいフェスティバルに参加し施設見学へ2名参加、見学受け入れにより学ぶことが多かった		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営法人の相談員との連携を良くし本人家族からの話をよく聞いて利用者本位にたった支援ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族や本人が話し易い雰囲気を作り不安や要望を傾聴し後に要望、質問などあった時は早急に解決するよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を聞いて必要なサービスを支援している、主に病気に関することが多く他科受診、リハビリ受診、歯科往診等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事はさりげなく支援し本人の出来る事は手伝って頂き、生活が楽しめる様お互い助け合い暮らしをしていく姿勢で生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時居室で大切な時間を過ごして頂ける様にお茶を提供、写真を見て頂き生活の様子を伝えている、気軽に話せる雰囲気の中で本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人ひとりの家族や馴染みの人と関係が途切れないように連絡したり、気軽に訪問できるような環境づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格や能力を把握しホーム内の仕事、遊び、余暇活動の中で声かけ合い助け合いながら生活できる様に職員一人一人が周知し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居された後も本人を訪問したり家族に会った時は声かけをし話を聞いて支援できるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族の思いや希望の理解に努め出来る限り本人本位の暮らしが出来るよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ライフヒストリー表を記入してもらっている、可能な限り本人・家族・友人・知人から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中からひとりひとりの心身の健康状態有する能力等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせるためにアセスメントに基づいて目標をたて関係者と話し合い意見を反映した介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に行った事、様子を記録し申し送り情報交換、必要時その都度話し合い申し送りノートに記入実践、結果をみて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況の変化に合わせて必要なサービスを支援している、定期的プランの見直しを行い柔軟な支援サービス出来る様努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週あるカラオケへ行き2名が歌っている。音楽療法週3回、併設病院の行事に参加、近隣の幼稚園との交流会年2回行い楽しんでいる、併設施設の訪問販売で買い物の支援。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診、利用者、家族が希望する他科受診、歯科の往診など受けている、日常的に看護師が健康状態を把握し主治医と連携し健康管理につとめている。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者である看護師が常勤不在時の情報報告により、いつでも外来受診で医師と相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師が付き添い看護・介護添書や口頭により情報を提供し、入院後も訪問し状態や経過など医療関係者と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応(看取りの方針)について家族と話し合いを段階的に行い不安のない様に支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は病院勤務の経験者が殆どであり急変時事故発生時の対応について学習している。協力病院が隣接し24時間体制で対応している、看護師が常勤とともに学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練年2回(うち夜間想定1回)母体の病院、併設の施設の協力を得て行った・水害避難をホーム独自で訓練、手作りで防災頭巾作成。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけ関わりをもってプライバシーを損ねるような対応にならないよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は一人一人一方的なケアに繋がらないように声かけ、何でも話し合い本人の思いを大切にしている、選挙の投票は5名が希望し投票。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団で行う活動を優先することもあるが、本人のペースを大切に希望に添った暮らしが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に合わせて訪問美容や行きつけの病室を利用している。衣類も本人と相談しながらちぐはぐにならないよう選んでいる。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食材をみて今日の献立は何か楽しみにし調理を出来る方に手伝って頂き、お茶入れ配膳・下膳・食器洗い等分担し行っている。献立については栄養士と話し合い、誕生会は希望のメニューにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え栄養士が献立を作り、一人ひとり食事・水分量を把握できる様にしている。その人の状態に合わせて食事の形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し毎食後の口腔ケアは一人ひとりの能力に応じ声かけ・見守り・介助を行っている。義歯の定期的洗浄実施		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを出来る限り使用しないで済むように一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をプライバシーに配慮して行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日リハビリ体操・ラジオ体操・散歩など身体を動かし水分1000～1500ml摂取栄養士は野菜を多く献立をたて予防に努めている、個々に合った下剤調整、浣腸により排便を促す。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが体調や希望により変更したり拒否されたときは時間をずらし声かけ本人のペースでゆったりと入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室や共有のスペースのソファで自由に休息を取って頂き、夜間は居室の室温・寝具の状態・入眠状況の確認を行い安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬についてほぼ理解しておりその人の力に応じた服薬支援を行い症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・調理・お茶入れ・配膳・下膳・食器洗いテーブル拭き・カーテンの開閉・洗濯物たたみ役割を分担し行っている。作品作り・塗り絵・計算・歌・パズル・DVDやTVを観る・踊る・散歩など其々楽しんでいる。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよい季節は日常的に敷地内にある屋外(病院中庭・ホーム横・病院前公園)へ散歩に出かけている、6~10月バスレクリエーション、ご家族を誘いさくらんど・動物園・レストランへいきました。御家族とドライブ、外出、外泊している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている、必要な時使えるようにしているが、ご家族が購入し本人からのお金を所持したいという要望は現在ありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるようにしているが、少なくなってきた。電話の利用・手紙など推奨し支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は整理整頓し掃除に力を入れ、室温はエアコン・暖房・換気により調整、光が入りまぶしい時はカーテンを上げ下げして快適に過ごせるようにしている、四季折々に壁飾りを入居様と作成し季節感を味わっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂のテーブル・ソファ・椅子を自由に使い好きな空間で思い思いの生活ができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を大切に家具・装飾品・テレビ・椅子を置きベッドの向きなど工夫し居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・ダイニング・廊下・トイレ・階段・浴室が広く手摺があり安全に移動でき、一人一人の心身の機能を考慮し居室を決めている。		

目標達成計画

事業所名 医療法人福和会 グループホーム朝風

作成日：平成 30年 1月 4日

市町村受理日：平成 30年 1月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入居後の趣味・嗜好の変化の情報が蓄積されていない	入居後知り得た趣味・嗜好の情報を途切れないようにする	趣味・嗜好の変化を記録する様式を作成する	3か月
2	26	介護計画の評価は現状では分かりにくい	各受持ち職員が定期的に評価できるようにする	合同会議にて新しいモニタリング表を作成する	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。